

授業で「運動」が 好きになる。 「10年後の私」のために。

たまほ
山梨県中央市立玉穂中学校

全校生徒数	388名(男子208名 女子180名)		
全クラス数	13	教職員数	31名(内体育教員2名)
運動部活動	9	運動部活動参加率(中学2年)	78.3%
地域の外部指導者の活用(年間延べ人数)			5人

取組時の課題と目的

Plan

1 取組時の課題

子供たちが外で遊ぶ機会(場所)を失いつつあり、核家族化が進んだことで、家庭や地域において遊ぶ相手が減っている。本校でも、こうした現状が顕著に感じられるようになり、運動に親しむ機会が極端に少なくなり、運動の二極化が進み始めていた。

そこで、全ての生徒が等しく運動に親しむことができる保健体育の授業において、さらなる改善を行うことが必要であると感じている。

2 取組の目的

- ①日常生活の中へ、意図的に運動をする機会が設けられるように授業でアプローチを行う。
 - ②学習指導要領の全面实施に伴い、教育課程の見直しをするだけでなく、日々の授業改善を大切にして、子供たちの学び合いを充実させる。
 - ③体づくり運動や体育理論、保健学習をより一層充実させることで、「10年後の私」に還元できるような授業づくりを目指す。
- これらを念頭に置き、運動の苦手な生徒が運動の楽しさや喜びを味わえることを第一の目的とした。

取組の内容

D.

教員の思いやねらいをより具現化し、目の前にいる生徒一人一人の将来を思い、生徒が夢中になる授業を展開していくことが必要だと考える。

1 特別なことではなく当たり前のことを

「体育の授業が、楽しい。」生徒がそう思えるような授業の準備をいかにしておくか、常に意識するようにしている。また、運動が苦手、好きではないと思っている生徒に対しても、安心感や居心地のよさを得られるような指導を工夫している。授業づくりにおいて、体育科教員で共通理解を図り、授業の雰囲気づくり、生徒一人一人への声かけを心がけている。

「達成感」「爽快感」が味わえる授業、できなかったことができるようになる授業、分からなかったことが分かる授業を大切にして「楽しい授業」への取組を進めている。

●工夫したこと

①授業カードの工夫

単元に応じて、ふり返りやすく使いやすい構成にし、1枚ポートフォリオを活用している。年間を通じて生活習慣チェックを行い、良好な生活習慣と健康意識の向上に努めている。

②話し合いの工夫

ワールドカフェ方式の導入や付箋紙の活用により、自分の考えを伝える活動を大切にしている。付箋紙は、友達からのアドバイスが形として残るために女子生徒には好評である。

柔軟なグルーピングにより、友達とのかかわり合いや学び合いを通して、運動する楽しさを味わえるようにしている。

③各単元におけるルールの工夫

男女がともに取り組めるルール、運動が苦手な生徒が取り組みやすくなるルール、みんなとのかかわり合いを大切にしたルール等、生徒一人一人が目的意識をもって取り組むことができるようにルールを設定している。

④外部人材の活用

学校全体で取り組むことで共通理解を図っている。

2 授業をトランスフォームする

(1) まずは、体づくり運動と体育理論の重要性から

体育分野における源であるこれらの単元を通じて、積極的に運動に親しんだり、楽しもうとしたりする資質を着実に育むことを大切にしたい。東京五輪招致決定のニュースは、大きな教材となった。

(2) 保健学習が「10年後の私」を変えていく

5年後、10年後の私にとって、保健分野の学習が子供たちの実生活において、どのように生かされていくかに視点を置き、思考させる授業を目指した。

将来の自分につながる健康への意識が高まり、生活習慣の定着、運動の実践等、取組に広がりが見られる。

(3) 単元がもつ面白さを最大限に引き出していく

3年生で現代的なリズムのダンスを選択している。プロのダンサーを講師に招いて、ダンスの成り立ちから学び、踊ることの本質的な楽しさに迫っている。

取組の成果

Check

- ①生徒の保健体育の授業に対してのイメージが変わり始めている。他教科では味わえない楽しさや達成感、みんながひとつになれる感じ等、「体育は楽しい!」につながっている。
- ②体を動かすことの楽しさを感じ始め、授業へ意欲的に取り組む生徒の姿がこれまで以上に増えている。

今後の課題

Action

- ①継続させながらも、取組の方法に変化をもたせ、生徒を飽きさせないようなアプローチを大切にしていかなければならないと考えている。

